

令和4年度事業報告

1. 令和4年度、理事会及び評議員会の開催状況について

(1) 第106回理事会

- ・ 日 時 令和4年6月6日（月）10時30分～11時44分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
- ・ 議 案
 - 第1号議案 令和3年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和3年度決算（案）
 - 第3号議案 人事案件について
 - 第4号議案 定時評議員会の招集について
- ・ 報告事項
上記、4議案が審議され、承認されました。

(2) 第84回評議員会

- ・ 日 時 令和4年6月23日（木）10時27分～11時43分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
- ・ 議 案
 - 第1号議案 令和3年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和3年度決算（案）
- ・ 報告事項
 - 令和4年度予算の概要について
 - 令和4年度施設整備予算の概要について
 - 令和3年度の施設整備について
 - 園内の遊具による事故への対応状況について
 - こども家庭庁の設置について（情報）
 - その他
- 上記、2議案が審議され、承認されました。

(3) 第107回理事会

- ・ 日 時 令和4年11月29日（火）10時24分～11時15分
- ・ 会 場 こどもの国会議室
- ・ 議 案
 - 第1号議案 人事案件について

- ・ 報告事項
 - 令和4年度上半期事業報告について
 - 令和4年度上半期収支状況等について
 - 令和4年度施設整備工事の概要について
 - 令和5年度施設整備予算要求の概要について
 上記、1議案が審議され、承認されました。

(4) 第108回理事会

- ・ 日 時 令和5年3月28日(火) 9時56分～11時10分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
- ・ 議 案
 - 第1号議案 令和5年度事業計画(案)
 - 第2号議案 令和5年度予算(案)
- ・ 報告事項
 - 令和5年度施設整備予算(案)の概要について
 - こども家庭庁の設置について
 - ミルクプラントリニューアルについて
 - その他
 上記、2議案が審議され、承認されました。

2. 入園者の動向

令和4年度の入園者数(有料) ⇒ 776,199人
 (目標入園者数85万人:達成率91.3%)

(1) 近年の入園者実績

平成31(令和元)年度	854,739人
令和2年度	541,370人
令和3年度	764,361人

(2) 半期ごとの状況

・ 上半期

上半期の入園者数は約382千人で、前年度比では約29千人の増となったが、コロナ禍前の上半期3カ年平均(平成29～31年度)との比較では約98千人の減となっている。

夏期に第7波による全国的な新型コロナウイルスの感染拡大があった

ものの、政府による大きな行動制限が行われなかったことや屋内外におけるマスク着用に関する緩和に向けた見解が示されたことから、入園者数も徐々に回復し、4月を除き、8月までは前年度比増の入園者数で推移した。また、人数制限を行いながらではあったが、3年ぶりにプールが再開されたことも入園者数増の要因となっている。9月に入り、シルバーウィークが2週に渡り雨の影響を受け（2回ある3連休のうち4日間は雨）、9月の入園者数は約41千人と、開園以来、9月としては6番目に低い数字となった。総じて上半期は8月まで好調であったが、9月の影響で29千人の増に留まった。

・ 下半期

下半期の入園者数は約393千人と、前年度比約17千人の減となっているが、これは前年度が特に好成績であったため、コロナ禍前の下半期3ヵ年平均（平成29～31年度）との比較では、約9千人の増となっている。

下半期は全般的に、コロナ禍による影響はほとんどなく、前年度に前売券の販売により入場制限を行ったスケートも、4年度はコロナ禍前と同様に窓口のみの販売により入場制限を行わずに運営を行った。11月は天候の影響（土日祝の3日間は雨）を受け、入園者数が前年度比で約3万人と大幅な減となった。その後は持ち直し、3月中旬までは年間入園者数が80万人に届く可能性が高まったが、3月下旬の桜の見頃の時期に前線が停滞し、雨が続いたことから、3月は前年度比約16千人の減となった。その結果、年間入園者数は80万人に届かず、約776千人と前年度比約11千人の増に留まることとなった。また、年間入園者数をコロナ禍前の過去3ヵ年平均（平成29～31年度）と比較した場合、約89千人少ない結果となった。

（3）コロナ禍における特徴

前述のとおり、令和4年度の入園者数とコロナ禍以前の入園者数とは乖離が大きく、コロナ禍の影響は依然として否定出来ない状況にあるが、回復傾向にあることは間違いなく、個人と団体の入園者数比率にも変化が見られている。コロナ禍以前には、約8：2であった個人対団体の割合が、コロナ禍では、約9：1と団体入園者数が大きく減少したが、令和4年度には、8.6：1.4となっており、団体入園者数の増加とともにその割合も高くなってきている。

H30'	全体 873,740 人	うち団体 168,340 人 (団体比率 19%)
H31'	全体 854,739 人	うち団体 143,660 人 (団体比率 17%)
R2'	全体 541,370 人	うち団体 52,023 人 (団体比率 10%)
R3'	全体 764,361 人	うち団体 83,828 人 (団体比率 11%)
R4'	全体 776,199 人	うち団体 110,089 人 (団体比率 14%)

3. 主な事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」第1条第3項に掲げる、児童の健全育成のための事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、次の事業を行った。

なお、各種事業の実施を含めた園の運営に当たっては、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、政府方針等に沿った基本的な感染防止策を入園者、職員等に周知するとともに、密閉・密集・密接となる可能性の高い事業の開催の中止、または規模を縮小するとともに屋内施設等では利用制限などを行った。

(1) 自然との関わりを主とした来園促進のための各種イベント

恒例となっている自然体験イベントとして、「ほだ木にシイタケ菌の駒打ち」、「ジャガイモ掘り」、「枝豆収穫」、「サツマイモ掘り」を実施した。また、イベントに合わせ、畑で育てたタマネギを収穫し販売を行った。

自然と生き物の生態を感じてもらう四季折々のイベントとして、「テナガエビ釣り大会」、「虫とりをしよう」、「夏休み昆虫教室」、「セミの羽化観察」、「セミ取り」、「セミのぬけがら調査」、「バッタ観察会」、「木の実観察会」、「冬の虫の観察会」、「冬の野鳥観察会」などを開催した。

これらのイベントは、前年度同様に外部講師やアルバイトへの依頼を最小限にし、職員中心で行ったが、徐々にコロナ禍前の規模に近づけつつ、また、定員を設けるなどの対応も行い、多くのご家族に参加いただいた。

このほか、

- ① 子どもたちの挑戦欲求を満たす遊びとして定着している「フィールドゲーム」と「スタンプビンゴゲーム」
- ② 平日の集客増とシニア層を中心とした自然愛好家の利用を促すため、月1回ペースで実施している「ノルディックウォーキング」
- ③ 冬季の日曜日を中心に中央広場で実施した、焼き芋が人気の「たき火広場」などを、例年どおり開催。

また、季節ごとに恒例となっている「春まつり」、「秋まつり」、「椿まつり」などを開催した。新たな試みとしては、8月に「ミニ夏まつり」として、平成記念館（旧皇太子記念館）を会場に、ヨーヨー釣り、金魚すくい、盆踊りなどを内容として開催。あいにくの雨模様だったが、浴衣姿の子どもたちも多く見られ、全体で300人近い人たちに参加、楽しんでいただいた。

一方、密集・密接になる可能性の高い「ゆめゆめシティ」や「七夕そうめん流し」、「バウムクーヘンづくり」などの食に関わるイベントは新型コロナウイルス感染予防の観点から、昨年度に続き中止した。

(2) プール、スケート、野外炊事、スポーツ施設等

① プールは、利用券の前売り制を導入し、人数制限を実施するなど、感染対策に十分留意しながら3年ぶりに営業を行った。期間は7月16日から8月30日までの40日間で、休憩スペースの混雑緩和のため、1日の発売枚数を1,800人に設定したが、平日は多くの日が1,000人に届かず、かなり余裕があった。有料入場者数は、36,421人で、入場制限を実施した影響により、コロナ禍前の令和元年の52%程度となっている。

② スケートは、期間を12月17日から2月26日の62日間とし、昨年、入場制限を行うために実施した前売り券の販売を止め、コロナ禍前と同様に窓口販売とした。感染防止対策の観点から、1日当たりの滞在者数2,000人程度を目安に入場制限を設定したが、最高入場者数は2月23日の2,404人、最大滞在者数は1,250人程度であったため、実際に制限することはなかった。また、スケートリンク内でのマスクの着用を必須とし、食事専用エリアも設けた。有料入場者数は41,524人で、前年度比6,680人の増となっている。

なお、早朝スケート教室、学校団体スケート教室は中止した。

③ 野外炊事場は、平日の学校団体の利用も徐々に増え、週末は家族連れを中心に利用いただいた。

④ サッカー場、テニスコートは、例年同様に土日祝日には予約の完売状況が続いた。

⑤ 宿泊が伴う研修センター、キャンプ場は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、昨年度に続き営業を中止した。

(3) 雪印こどもの国牧場との連携

例年「雪印こどもの国牧場」と連携し実施している、5月の「牛乳まつ

り」は、コロナ禍前より規模を縮小して開催。11月の「牧場まつり」と桜の季節（3月末から4月初め）の「桜と羊のフェスティバル」は、コロナ禍前の内容に近づける形で開催することができ、牧場ならではの内容で来園者を楽しませることができた。

（４）企業の助成や協賛、教育関係団体等の協力による事業の実施

① ブラスフェスティバル（旧 青空コンサート）

例年、中央広場で野外演奏を行っていた「青空コンサート」を、4年度から名称を変更し、平成記念館大屋根下で、春・秋・冬の年に3回実施。春は5月に開催し2日間で22校、秋は10月に開催し11校、冬は11月に開催し10校がそれぞれ参加し、演奏が行われた。

② こどもの国サッカー大会・朝日新聞サッカースクール

11月に近隣のサッカー協会などの協力による第41回のサッカー大会を開催。また、朝日新聞社販売局の協力によるサッカースクールを開催し、多くのサッカー少年少女に楽しんでいただいた。

③ フォトコンテスト

雪印メグミルク、資生堂、横浜エフエム放送、朝日新聞社、朝日新聞出版、東急電鉄、横浜高速鉄道、ベルマーク教育助成財団の後援と賞品の提供を得て、3月から4月にかけて「園内の自然と家族」をテーマに作品を募集し、応募点数は、331点（昨年は419点）と数多くの応募をいただき、うち35点を入賞作品とした。

④ ジャンボカルタとり大会・どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、正月行事として「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」を例年どおり実施。どんど焼き終了後の恒例イベントとして、焼き芋を子どもら300人に振る舞った。

⑤ 神奈川県児童福祉施設駅伝大会、卒業生送別マラソン大会

例年、資生堂子ども財団の助成を得て行われる、11月の神奈川県内施設の子どもたちが参加する「児童福祉施設駅伝大会」、「児童福祉施設女子駅伝大会」。また、年明け1月の「児童養護施設卒業生送別マラソン大会」が、感染防止対策の観点から2年間中止となっていたが、3年ぶりに再開された。

⑥ サンマを炭火で食べる会

感染防止対策を行いながら、開催すべく準備を進めたが、昨年度同様にサンマの不漁により、開催に必要な量を確保できないことから、中止とした。

4. 地域との連携強化

- (1) 例年、近隣地域との交流を推進するため、夏休み及び冬休みにおける地元自治会主催の「親子の集い」行事の実施にあたり、プール及びスケート場の無料開放を行った。

プールは、前売り券での営業再開に合わせて、7月25日に3年ぶりに実施し、621人の方に楽しんでいただいた。スケートは、昨年度から再開しており、12月17日に1,010人の方に楽しんでいただいた。

- (2) 横浜市青葉区の広報紙「AOBA」に、こどもの国の告知枠をいただいております。その枠を有効に活用し、イベント情報に加え「今月の見どころ」も毎月紹介していただきました。

なお、例年、青葉区役所で開催されている「区民まつり」が、3年ぶりに開催されたため、園内で収穫した銀杏の販売と、無料のかざぐるまづくりを実施した。

- (3) 東急バス青葉台営業所と青葉警察署がコラボした交通安全教室や、町田警察署による交通安全PRイベントを開催し、バスの死角体験や自転車シミュレーター体験、白バイ隊によるデモ走行、芸能人による一日警察署長イベントなどを行った。

- (4) 地元小学校の生活活動の一環として、中央広場花壇へのチューリップの植栽や椿の森の散策路整備など体験活動の場としての受け入れを行った。

なお、総合的学習・進路学習に寄与するため、例年、地元の中学・高校が実施する職場体験学習のための生徒の受け入れを行っていたが、コロナ禍により、昨年度に続き、学校側からの要請がなかった。

- (5) 令和元年度から地域共生社会の推進の観点から、地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業と協働し、園内のベンチ清掃を毎週1回、委託実施しており、今年度も引き続き実施した。

5. 自然環境及び施設の整備

豊かな自然を維持するため、樹木の剪定、伐採等を計画的に進めているが、数年前から発生しているナラ枯れの被害は依然として続いており、園内における倒木等による来園者への被害を防止するため、4年度も多くの危険木を

伐採処分したが、5年度もその対応が必要となっている。

施設の整備では、国費の補助により、老朽化により排水機能等の低下した「総合グラウンド」の改修工事、安定した電力供給等のため「高圧幹線・放送設備」の更新のための工事を実施した。

6. 広報・PR活動

(1) 「出前こどもの国」による広報・PR活動

東急や小田急などの企業と連携する「出前こどもの国」は、例年、駅前や商業施設に出店し、訪れた親子連れ等にかざぐるまの工作や缶バッジ作りを楽しんでもらうとともに、PRパンフレットとこども無料招待券をプレゼントするという園外広報活動である。昨年度から、徐々に再開しつつあり、5月に「南町田グランベリーパーク」で、8月に「東急百貨店たまプラーザ」と「南町田グランベリーパーク」、11月に「小田急新宿駅」で開催することができた。

(2) デジタルツールの強化

こどもの国のイベント等の情報発信手段として、ホームページやツイッターを始めとしたSNSの積極的な活用とその内容の充実に努めた。

具体的には、昨年誕生したコブハクチョウの様子や、園内のマンホール蓋に描かれた四季のイラスト・当園マスコットキャラクターの紹介など、閲覧者により興味を引いていただけるような園内での出来事やイベント情報をこまめに発信するよう努めた。

なお、9月に落書き広場で描かれた落書きをツイッターで取り上げたところ、思わぬ反響があり、ネットニュースなどにも取り上げられ、フォロワー数の大幅な増加につながった。

以上